

議案第1号 今治市総合都市交通体系調査の概要について

1. 背景および目的について

今治市は、平成2～3年にかけて旧今治市を対象として「今治広域都市圏総合都市交通体系調査」（愛媛県施行）を実施しましたが、その後の国道196号今治バイパスの全通や瀬戸内しまなみ海道・今治湯ノ浦ICの開通などにより、広域交通体系の整備が図られたことや、12市町村による広域合併に伴い、市中心部の中心核・旧町村中心部の生活拠点および臨海部の産業拠点等に市街地が分散している状況にあります。また、人口減少や超高齢社会の到来に伴う自動車利用の減少、中心市街地の衰退及び厳しい財政状況による公共投資余力の減退などが顕在化してきています。

平成2年当時から自動車流動が変化している要素

- ・しまなみ海道の開通、それに伴う船舶航路の廃止、減少
- ・広域交通体系の整備、進展
- ・平成17年1月の12市町村による広域合併に伴う生活拠点、交流拠点などの分散化
- ・中心部から郊外部への人口や店舗などの移動

問題点

- (1) 都市計画道路の長期未着手問題
- (2) 市町村合併に伴う交通計画課題の検討
- (3) 都市構造の変化への対応
- (4) 中心市街地活性化への対応

今治市総合都市交通体系調査の実施

2. 調査対象区域

本調査の対象区域は、今治市の陸地部（旧今治市、旧朝倉村、旧玉川町、旧波方町、旧大西町、旧菊間町）とし、島嶼部と陸地部との交通流動については、平成17年度に行われた道路交通センサス*データなどにより補完するものとします。



(※) 道路交通センサス…………… 正式名称を「全国道路交通情勢調査」といい、道路交通の現況を把握し、将来の道路整備計画の立案資料とするため、国土交通省・都道府県・高速道路株式会社などが実施している全国規模の交通量及び道路現況調査で、昭和3年に道路改良会が全国交通調査として始めて以来、概ね5年ごとに実施されてきた、いわば道路に関する国勢調査ともいふべきものです。昭和55年度調査より道路交通センサスという名称になり、5年ごとに調査を行い、中間年として3年目に一般交通量調査を実施することとなりました。

3. 調査の全体計画について

(1) 年次別の調査・検討項目

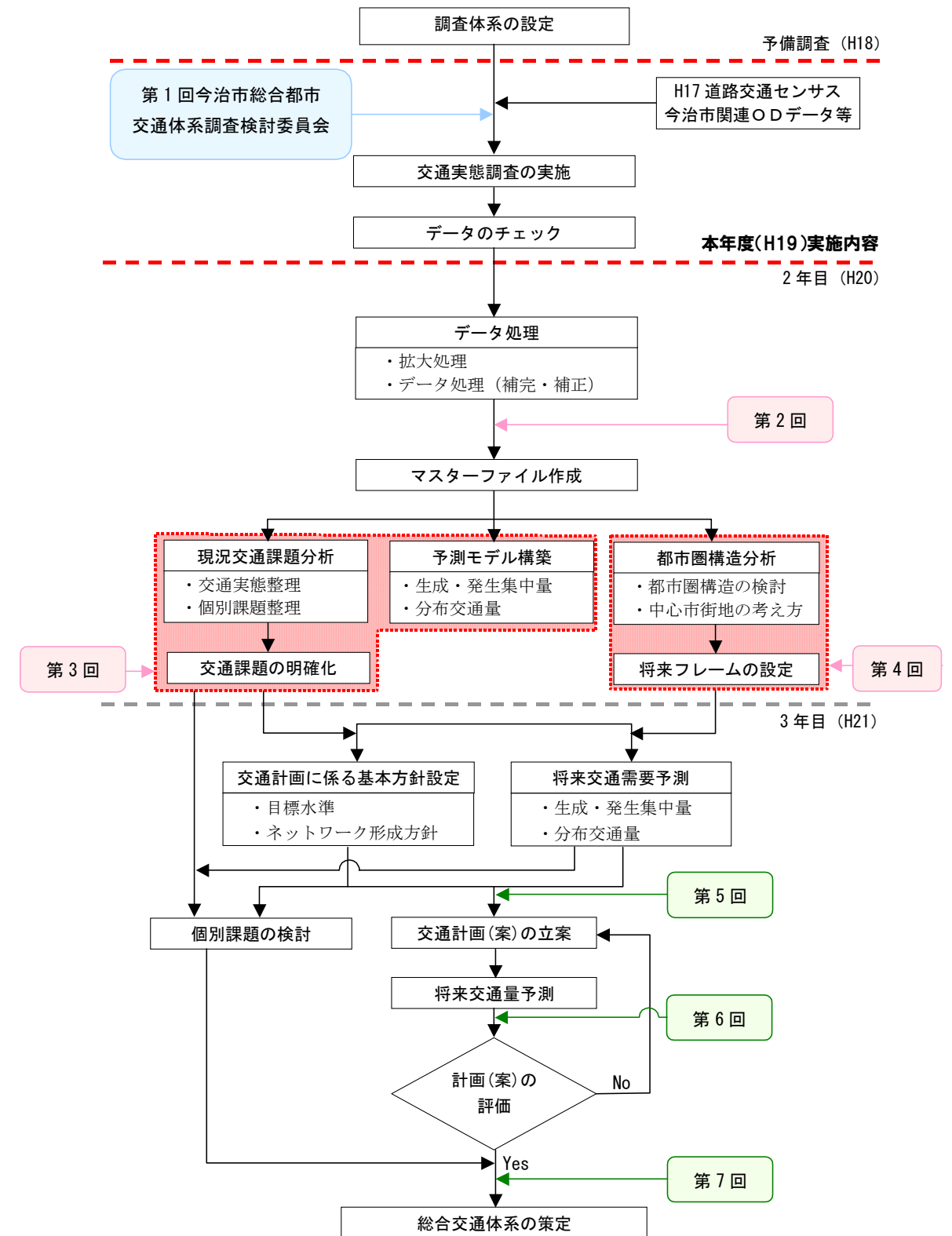
年度	主な調査・検討項目
平成19年度 (1年目)	<ul style="list-style-type: none"> 交通実態調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ① 自動車OD調査(*1) ② スクリーンライン調査(*2) ③ コードンライン調査(*3) ④ アンケート調査 など データチェック
平成20年度 (2年目)	<ul style="list-style-type: none"> 拡大処理 データ処理 (補完・補正) マスターファイルの作成・現況の交通実態整理 交通課題の明確化 都市圏構造分析 将来フレーム設定 予測モデル構築
平成21年度 (3年目)	<ul style="list-style-type: none"> 交通計画に係わる基本方針の設定 将来交通需要予測 (H42 推計) 総合交通体系の策定 (主に道路網計画) 個別課題の検討

(*1) 自動車OD調査………Oは起点(origin)、Dは終点(destination)を表し、別名「自動車起終点調査」と呼ばれます。一般に、登録自動車のうちからサンプルを抽出し、ある一日の自動車の動きについて調査票に記入、調査するものです。

(*2) スクリーンライン調査… 調査圏域内において、通過する交通量を把握するため、河川・鉄道・丘陵等で設定した断面を横切る交通量を観測調査するものです。

(*3) コードンライン調査… 圏域外から圏域内へ流入してくる圏域外居住者の圏内流動を把握するため、圏域境界で実施する交通量調査のことで。

(2) 調査全体フロー



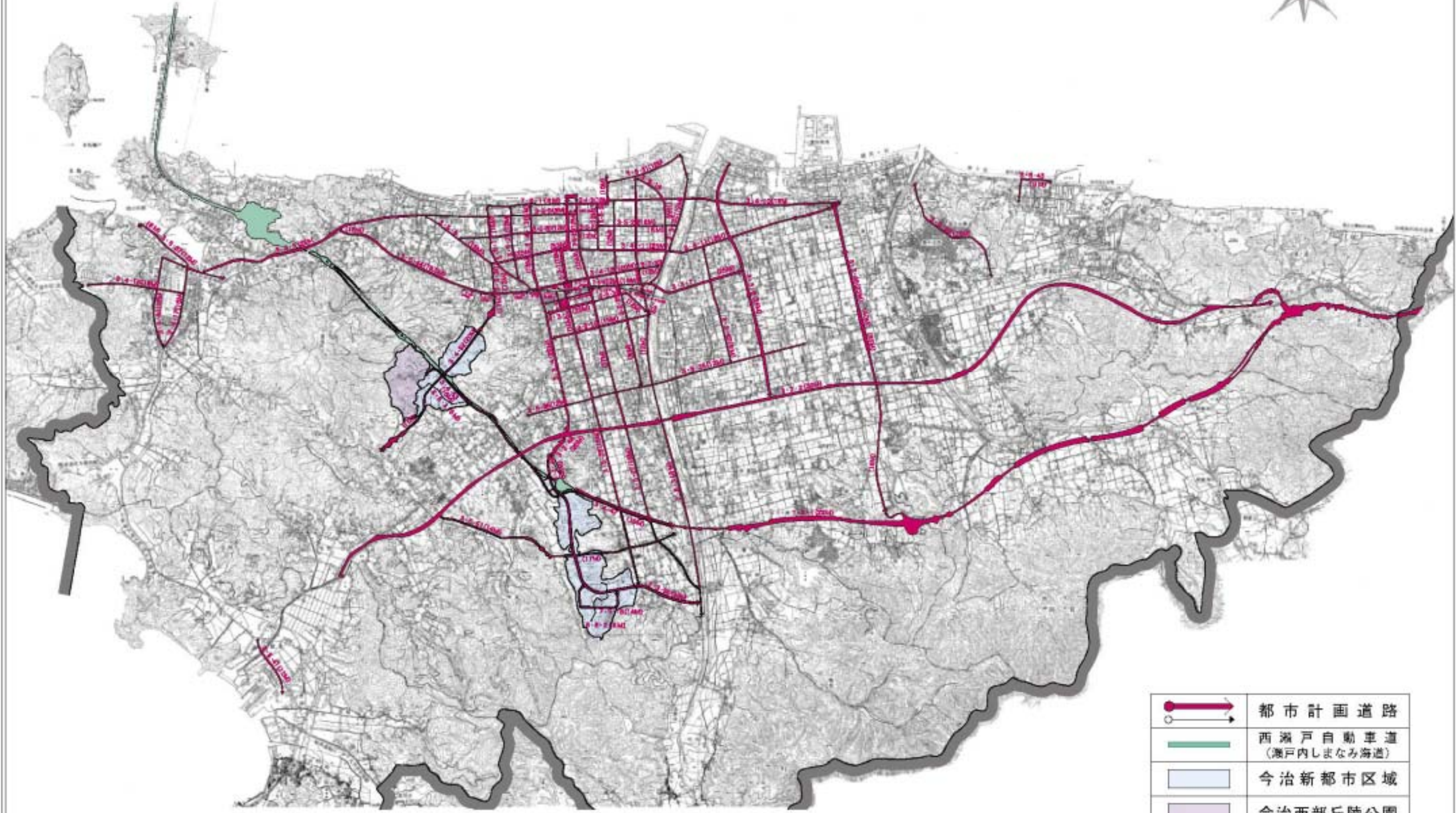
▲ 調査全体フロー

4. 問題点について

(1) 都市計画道路の長期未着手問題について

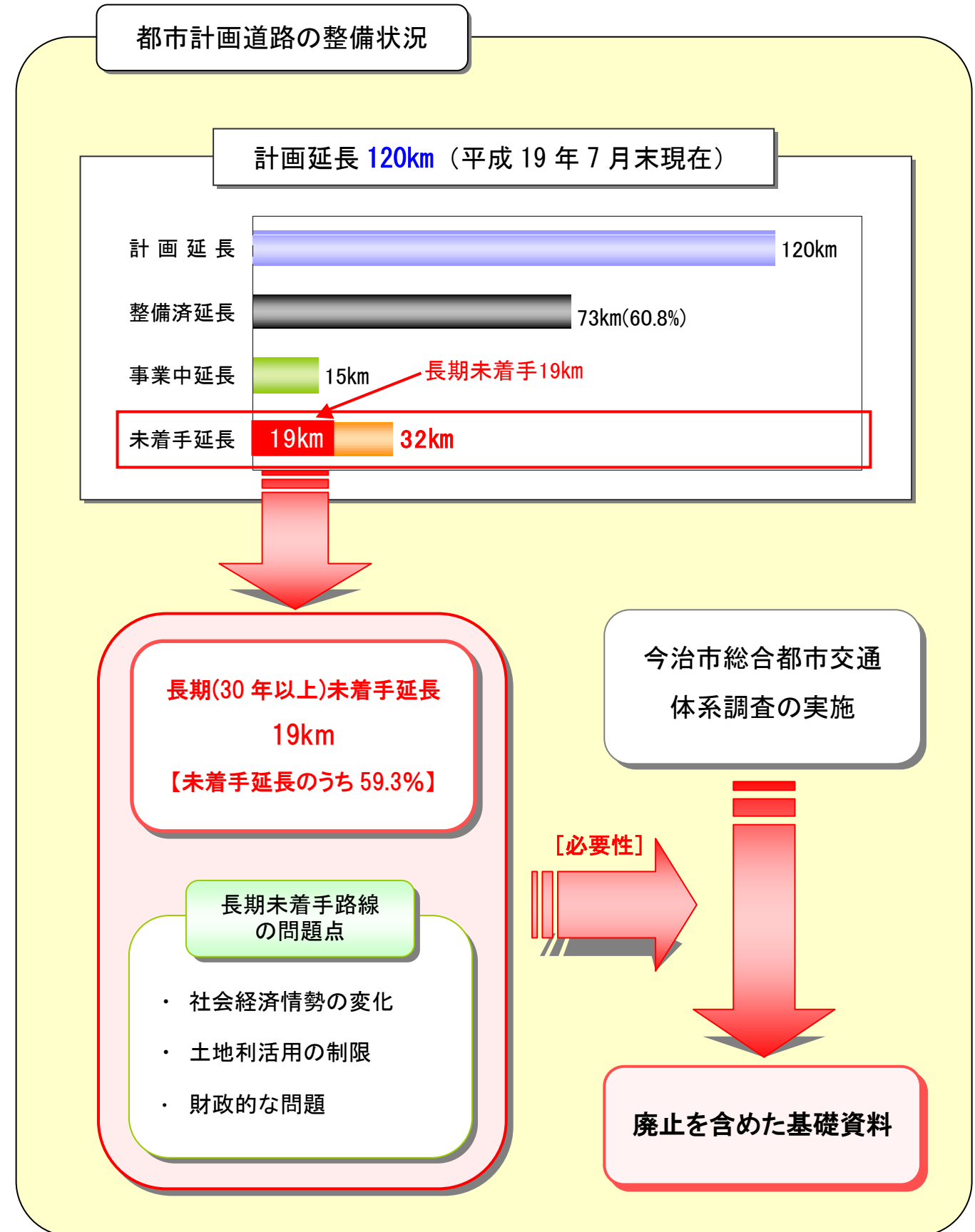
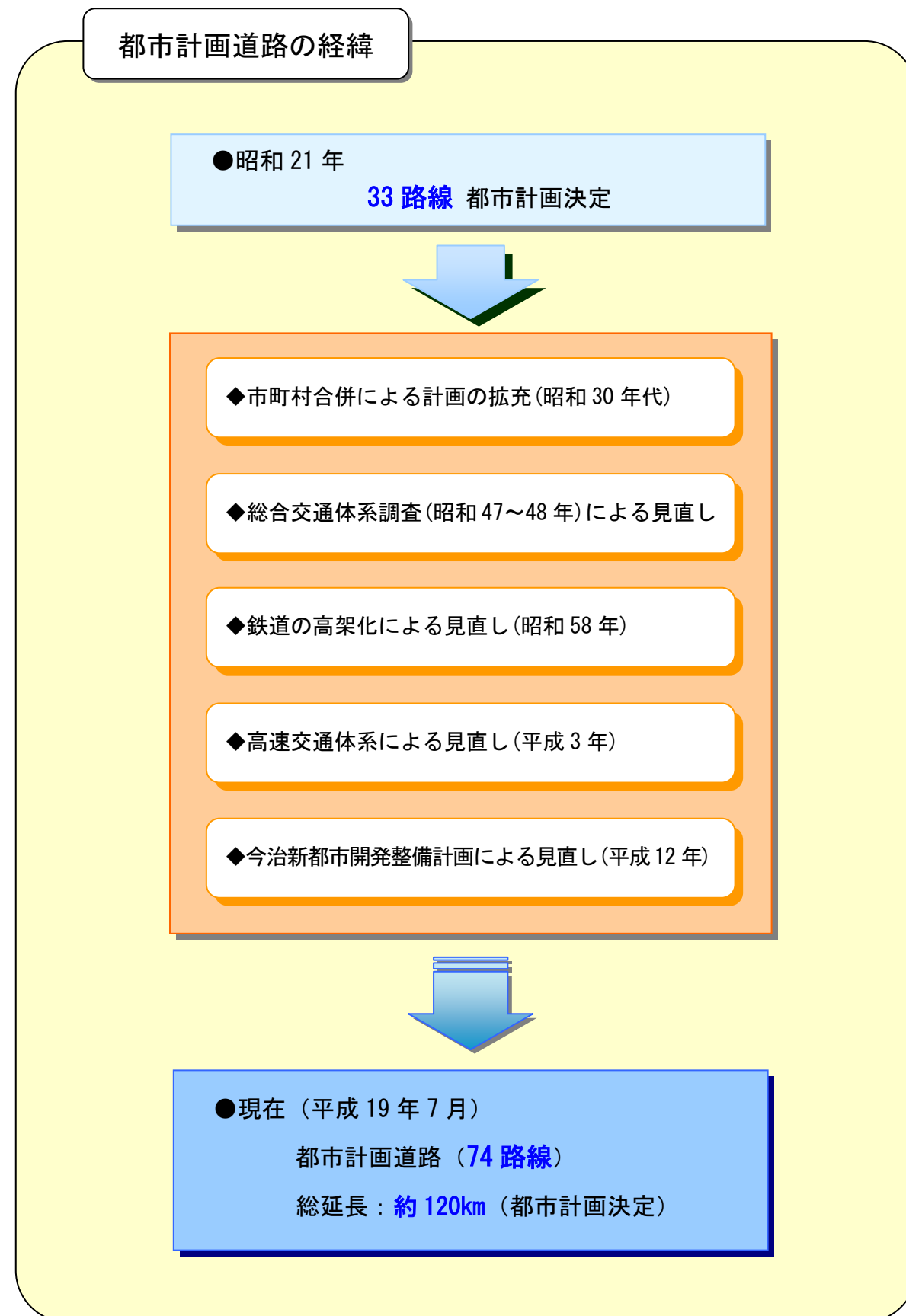
1) 現在の都市計画道路網図

今治広域都市計画道路網図

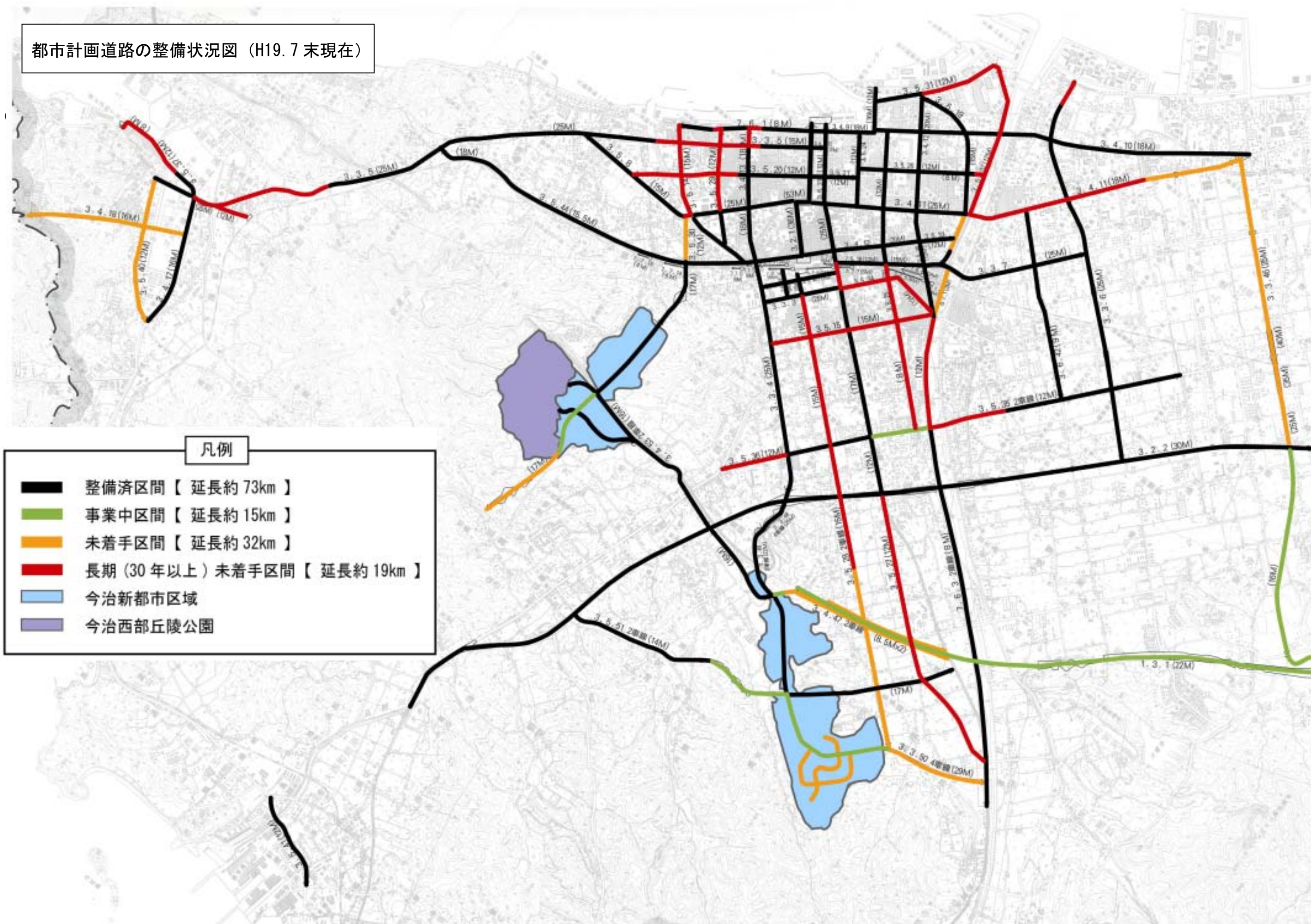


	都市計画道路
	西瀬戸自動車道 (瀬戸内しまなみ海道)
	今治新都市区域
	今治西部丘陵公園

2) 都市計画道路の経緯と整備状況



都市計画道路の整備状況図 (H19.7 末現在)



凡例

- 整備済区間【 延長約 73km 】
- 事業中区間【 延長約 15km 】
- 未着手区間【 延長約 32km 】
- 長期 (30 年以上) 未着手区間【 延長約 19km 】
- 今治新都市区域
- 今治西部丘陵公園

(2) 市町村合併に伴う交通計画課題の検討について

1) 市町村合併による市域の拡大について

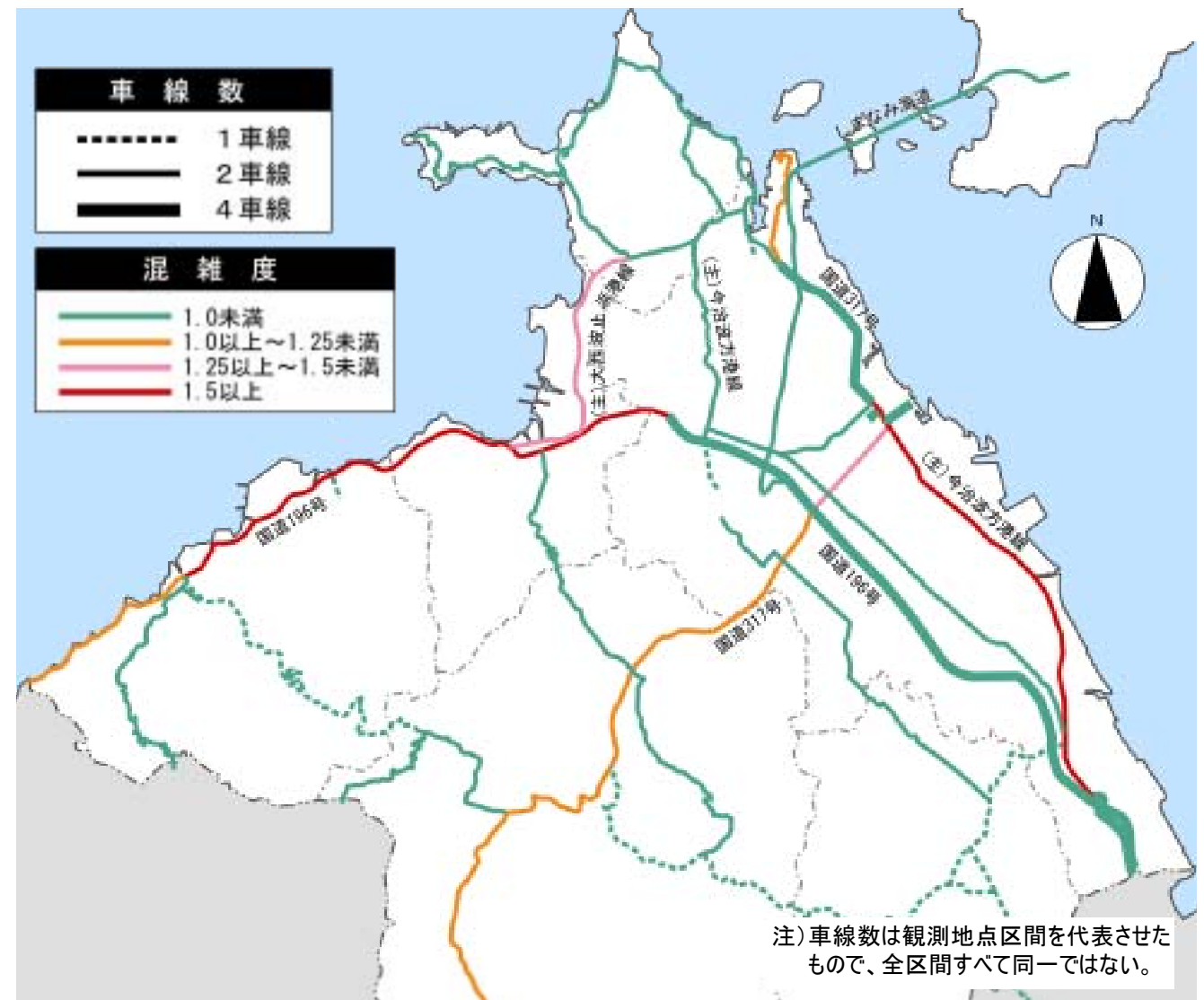
- ・ 市域面積は、74.8km² → 419.8km² (約 5.6 倍)
- ・ 人 口 は、11.5 万人 → 17.4 万人 (約 1.5 倍)

・ 市町村合併により、今治市陸地部の旧町村（波方町、大西町、菊間町、玉川町、朝倉村）から、今治市本庁舎のある今治市街地への交通需要が増加することが予想され、合併前と比較した場合、市内におけるトリップ長は長くなると想定されます。



2) 主要幹線道路における混雑度について

- ・ 国道 196 号大西・菊間方面の 2 車線区間は、混雑度が 1.5 以上と高くなっています。
- ・ 主要地方道今治波方港線は、中心市街地～国道 196 号今治バイパスとの交差点間の混雑度が 1.5 以上と高くなっています。
- ・ 国道 317 号は、国道 196 号今治バイパス～中心市街地間の混雑度が 1.25 以上、国道 196 号今治バイパス～玉川間が 1.0 以上と高くなっています。



注) 車線数は観測地点区間を代表させたもので、全区間すべてではない。

混雑度 = 交通容量 / 交通量 (単位: 台/日)

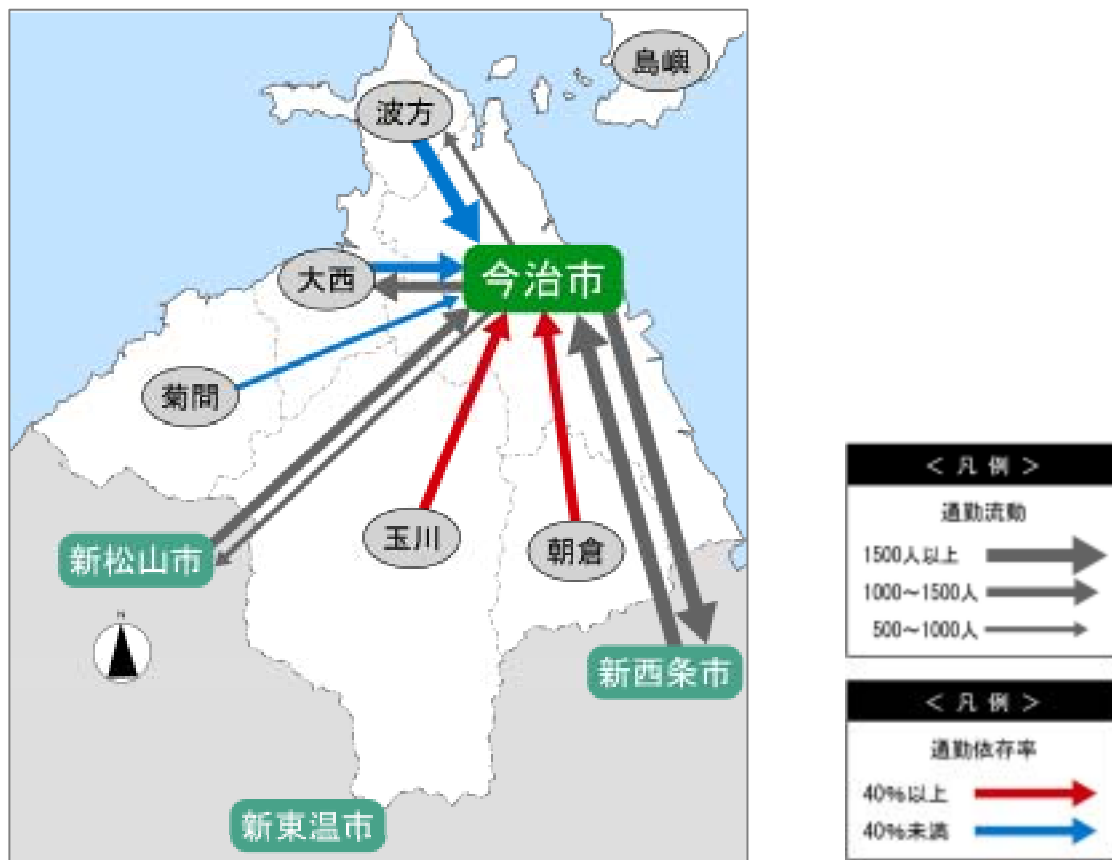
出典: 平成 17 年度 道路交通センサス一般交通量調査

▲混雑度図

3) 地域間の結びつきについて

① 通勤流動

- 旧今治市に関連した市町村間の通勤流動に着目すると、最も多いのは新西条市⇒旧今治市の2,299人で、以下旧波方町⇒旧今治市の1,650人、旧今治市⇒新西条市の1,609人、旧大西町⇒旧今治市の1,302人となっています。量的には、市域外である新西条市との流動が多くなっています。
- 合併町村の旧今治市への通勤依存率を見ると、旧玉川町の45.1%が最も高く、以下旧朝倉村42.0%、旧波方町38.5%、旧大西町30.2%、旧菊間町15.8%の順となっています。



▼旧今治市関連対市町村間通勤流動 (人/日)

対市町村 流出入	今 治 市 内							今 治 市 外					合計		
	波方町	大西町	菊間町	玉川町	朝倉村	小計	合併 島嶼部	中計	新松山 市	新東温 市	新西条 市	その他 愛媛県		県外	小計
流入 (今治市への 通勤者)	1,650	1,302	574	1,276	1,065	5,867	433	6,300	1,125	74	2,299	410	418	4,326	10,626
流出 (今治市からの 通勤者)	816	1,282	263	357	380	3,098	315	3,413	700	46	1,609	353	239	2,947	6,360
今治市への 通勤依存率*	38.5%	30.2%	15.8%	45.1%	42.0%										

今治市への通勤依存率 = $\frac{\text{当該町村から今治市への通勤者}}{\text{当該町村の総就業者数}}$

▼今治市関連通勤流動 (人/日)

	市内相互	流入	流出	計
新市内	68,527	6,092	4,444	79,063
旧市内	49,032	10,626	6,360	66,018

注) 島嶼部は合併後は市外とする

出典：H12 国勢調査

② 通学流動

- 通学流動は、通勤流動に比べて量的には少ないですが、その分布パターンは通勤流動に類似しています。しかし、通勤流動では少ない島嶼部から旧今治市への通学者が398人と、旧波方町からの413人に次いで多くなっています。

▼旧今治市関連対市町村間通学流動 (人/日)

対市町村 流出入	今 治 市 内							今 治 市 外					合計		
	波方町	大西町	菊間町	玉川町	朝倉村	小計	合併 島嶼部	中計	新松山 市	新東温 市	新西条 市	その他 愛媛県		県外	小計
流入 (今治市への 通学者)	413	334	203	215	198	1,363	398	1,761	47	3	348	117	6	521	2,282
流出 (今治市からの 通学者)	9	-	-	-	-	9	5	14	348	2	51	36	32	469	483

▼今治市関連通学流動 (人/日)

	市内相互	流入	流出	計
新市内	6,562	927	874	8,363
旧市内	4,833	2,282	483	7,598

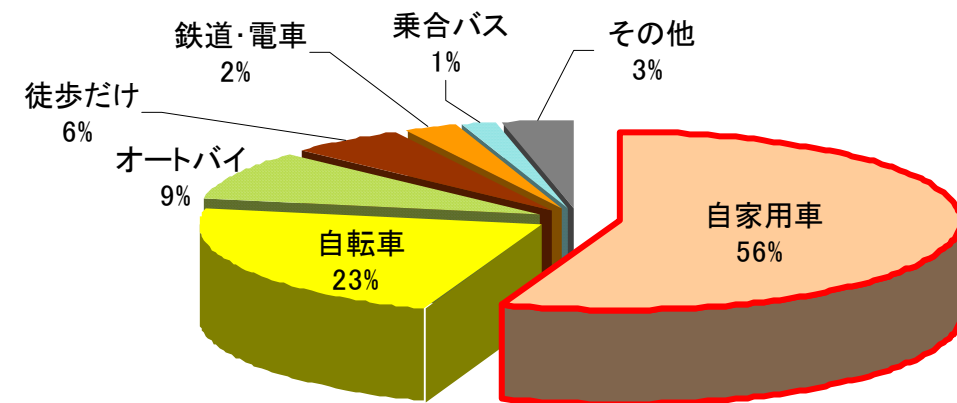
注) 島嶼部は合併後は市外とする

出典：H12 国勢調査

<参考> 旧今治市の通勤・通学者の交通手段構成

- 自動車が56%、自転車23%、オートバイ9%、徒歩6%となっており、道路を基盤とする個人手段が94%となっています。このことから、通勤・通学者は公共交通機関をほとんど利用していないことが分かります。

通勤・通学交通手段(旧今治市)



出典：H12 国勢調査

4) 通勤・通学時間帯に混雑している交差点について

- ① 喜田村交差点
- ② 片山交差点
- ③ 宮脇交差点
- ④ ロータリー周辺部 など



① 喜田村交差点



② 片山交差点



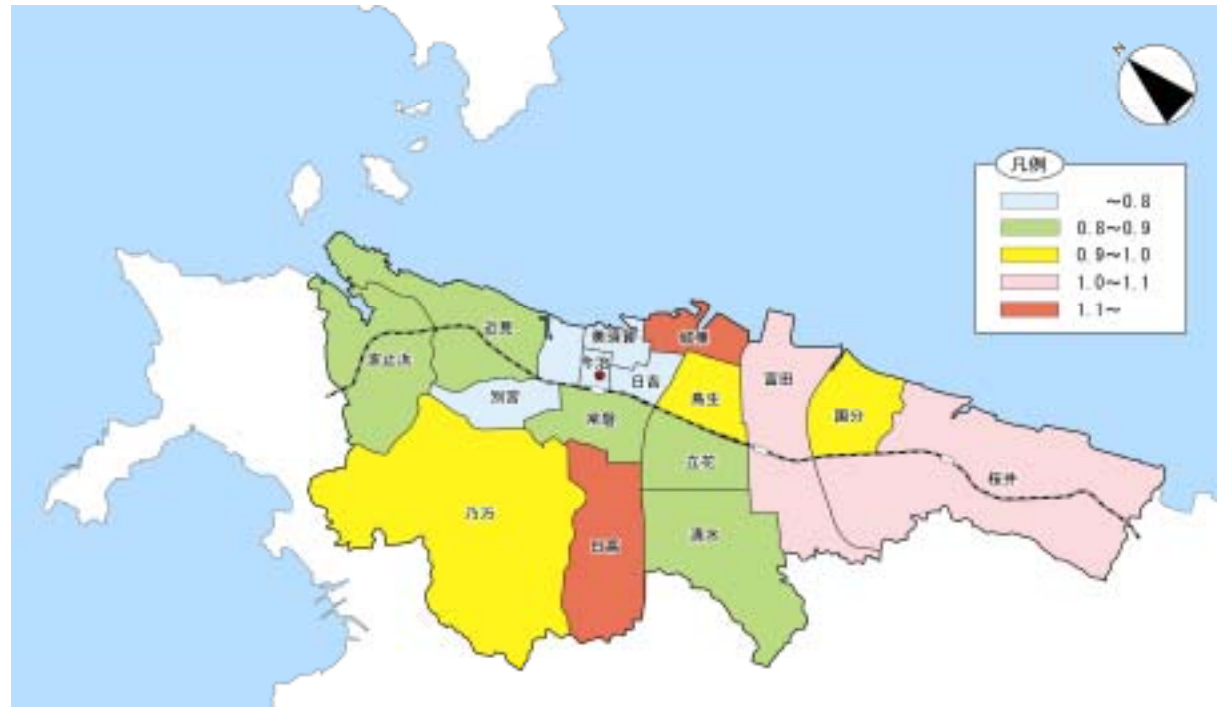
③ 宮脇交差点



(3) 都市構造の変化への対応について

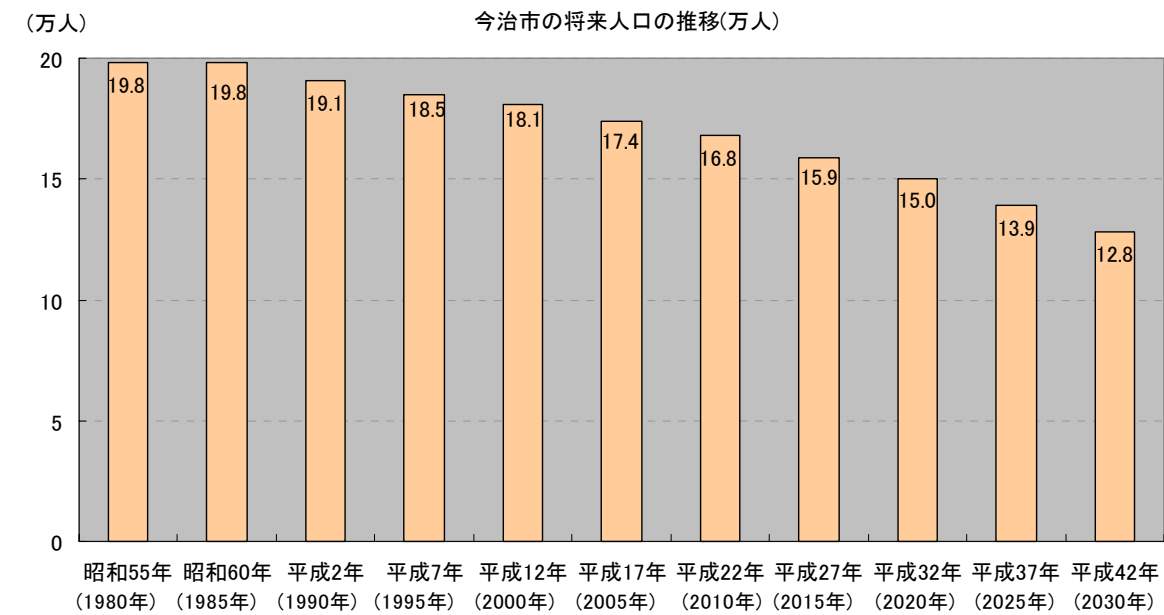
1) 旧今治市内における人口の郊外化について

• 全体的には人口が減少していますが、校区別の人口の推移をみれば、今治・日吉・美須賀校区などの市街地中心部では人口減少が大きく、反対に日高・城東・富田校区などの郊外部では人口が増加しています。(S60→H17)



2) 人口減少と少子高齢化について

• 今治市の人口は、昭和55年の約19.8万人をピークに減少傾向がつづき、平成17年には約17.4万人、平成42年には約12.8万人に減少する見込みとなっています。
 • 平成42年には、約5人に2人が65歳以上という超高齢社会が到来する見込みとなっています。

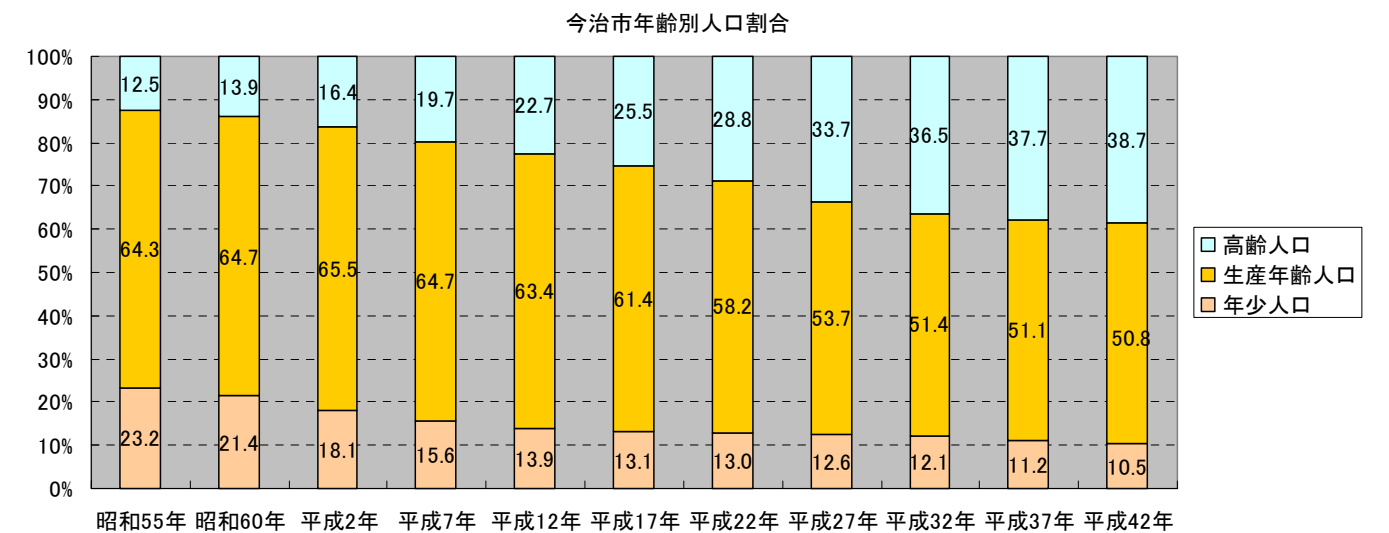


出典：国勢調査(合併前数値は旧12市町村合計)
：今治市総合計画

校区別世帯数および人口

	昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年		平成17年	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
今治校区	1,455	4,025	1,316	3,465	1,227	3,185	1,224	2,935	1,088	2,671
美須賀校区	1,192	3,598	1,320	3,466	1,375	3,362	1,327	2,959	1,241	2,700
日吉校区	2,191	5,694	2,029	5,181	1,922	4,715	1,937	4,539	1,692	3,978
別宮校区	3,214	9,281	3,254	8,851	3,267	8,241	3,190	7,496	3,235	7,355
常盤校区	5,143	13,087	4,910	12,178	4,841	11,660	5,047	11,676	5,019	11,261
近見校区	2,871	8,905	3,111	8,974	3,142	8,510	3,122	7,960	3,089	7,590
立花校区	3,463	10,473	3,573	10,075	3,714	9,800	3,749	9,395	3,868	9,248
鳥生校区	2,783	8,398	3,025	8,576	3,159	8,307	3,383	8,319	3,414	8,299
城東校区	1,435	3,784	1,477	3,851	1,725	4,342	1,808	4,330	1,839	4,225
桜井校区	2,805	9,470	3,025	9,569	3,296	9,814	3,423	9,570	3,609	9,778
国分校区	1,667	5,685	1,813	5,845	1,980	5,882	2,144	5,925	2,119	5,661
富田校区	3,324	11,142	3,591	11,417	3,804	11,360	4,153	11,554	4,238	11,367
清水校区	2,283	8,132	2,409	8,084	2,528	7,765	2,664	7,638	2,712	7,337
日高校区	2,627	8,133	2,888	8,471	3,149	8,684	3,470	9,203	3,779	9,587
乃万校区	2,388	8,360	2,615	8,556	2,768	8,257	2,932	8,217	3,055	8,181
波止浜校区	2,127	6,948	2,136	6,555	2,266	6,330	2,332	6,214	2,438	6,042
合計	40,968	125,115	42,492	123,114	44,163	120,214	45,905	117,930	46,435	115,280

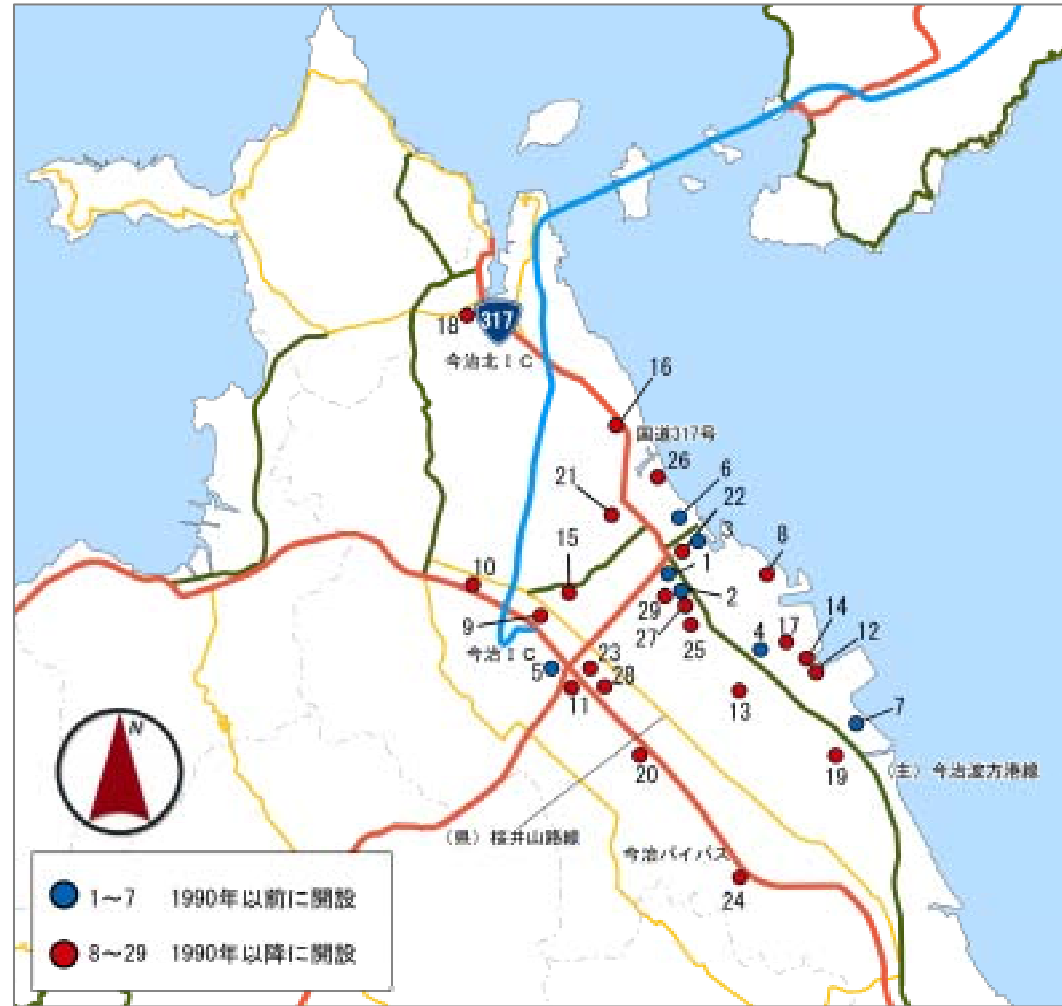
出典：国勢調査をもとに今治市が独自に集計



出典：国勢調査(合併前数値は旧12市町村合計)
：今治市総合計画

3) 大型小売店の郊外部への立地

- 大型小売店の立地は、1990年代以降から郊外部に広がっています。

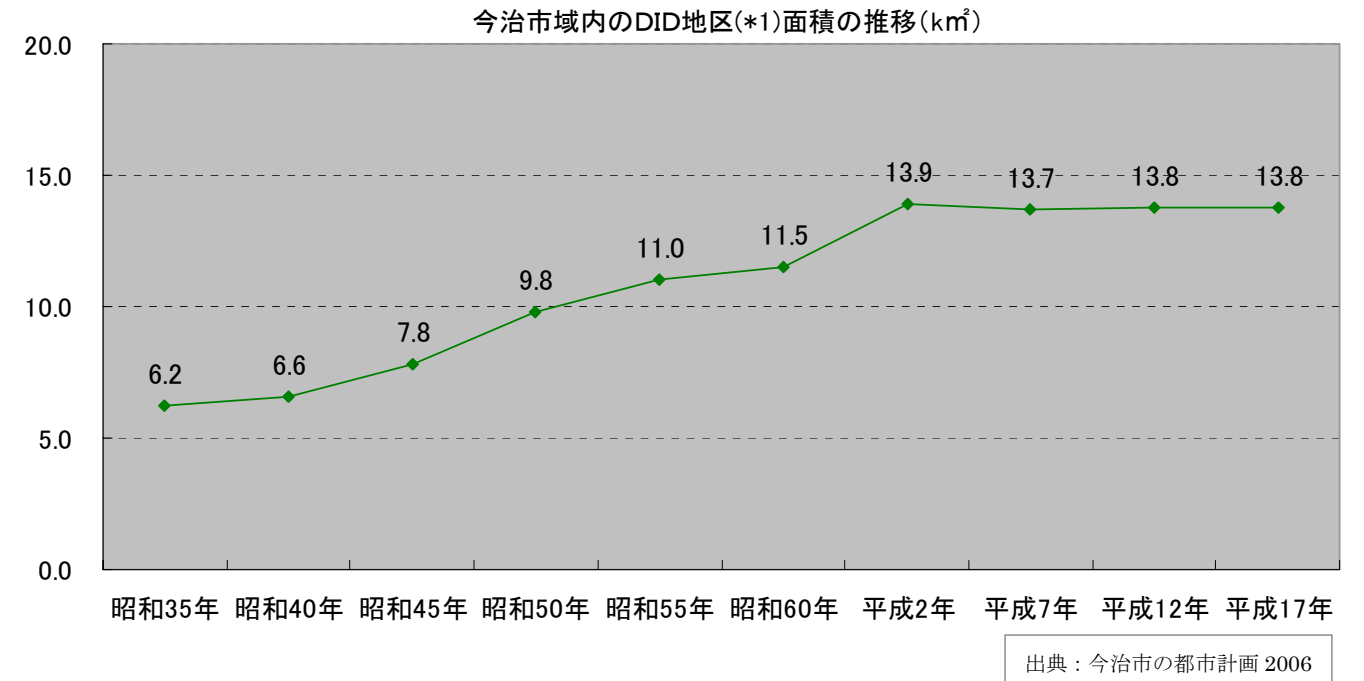


No	大規模小売店舗名	業態	店舗面積 (㎡)	No	大規模小売店舗名	業態	店舗面積 (㎡)
1	(株)今治大丸・今治織物工業(協)共同	百貨店	10,668	16	ディック近見店	ホームセンター	2,852
2	今治ショッパーズプラザ	スーパー	8,311	17	ベスト電器今治店	専門店	2,674
3	檜垣産業本町ビル	寄合百貨店	3,945	18	コメリH&G波止浜店・ラムー今治北店	ホームセンター	2,485
4	(株)家具センターワタナベ	専門店	1,494	19	マルナカ今治桜井店	スーパー	2,161
5	ディック今治店	ホームセンター	1,240	20	さいさいきて屋	スーパー・食品	2,062
6	(株)サカエヤ	専門店	1,096	21	Aコープ今治愛彩	スーパー	1,751
7	ワールドプラザ	その他	18,238	22	マルナカ今治駅前店	スーパー	1,702
8	フジグラン今治	スーパー	17,140	23	ブックオフ・ハードオフ・ハウスオブ今治片山店	専門店	1,610
9	今治サティ	スーパー	13,619	24	バリユー今治	スーパー・食品	1,483
10	マックスバリュ今治阿方店	スーパー	4,821	25	ゲオ今治鳥生店	専門店	1,465
11	バルティエ・フジ今治	スーパー	4,561	26	今治くすのきガーデン	専門店	1,460
12	ディック喜田村店	ホームセンター	3,520	27	フレッシュバリユー今治本町店	スーパー	1,351
13	フレスポ今治店	専門店	3,518	28	今治SMA	専門店	1,339
14	ヤマダ電機テックランド今治店	専門店	3,184	29	新今治国際ホテル	寄合百貨店	1,325
15	デオデオ今治店	専門店	3,000				

出典：今治市資料

4) 市街地拡大の収束

- 今治市の市街地 (DID 地区) は、平成 2 年ごろまで拡大を続けてきましたが、近年では人口の減少などに伴い、拡大傾向に歯止めがかかっています。



(4) 中心市街地活性化への対応について

現在、今治市においては、今治港に海の玄関口としての賑わいと交流の場を創出するために、「みなと再生委員会」を設置し、今治港周辺の整備について協議を進めております。平成19年度中には、みなと再生委員会としての構想が取りまとまる予定であり、この構想を受けた道路計画を本調査により検討する予定です。

(*1)DID 地区……………国勢調査により設定される人口密度が1ha当たり40人以上の区域が連担し、それらの隣接した地域の人口が5,000人以上を有する区域のことです。

5. 現在の交通状況について

(1) 旧今治市内の区域（4区分）間における交通流動について

- 平成 11 年度の道路交通センサスデータによれば、旧今治市内相互間の一日の総トリップ数は約 182,000 トリップとなっています。この内訳をみると、起終点が同じ地区内にある地区内々交通が約 49,000 トリップ、市内の他地区へ移動している地区間交通が約 133,000 トリップとなっています。
- H11/S60 の伸び率をみると、人口や商業施設の郊外化等に伴い、中心部（1区）関連交通より郊外部（3区、4区）関連交通の伸び率が高くなっていることが分かります。
- 例えば、人口が増加している郊外北部と郊外南部間の交通流動が、1.7 倍と伸びていることが分かります。

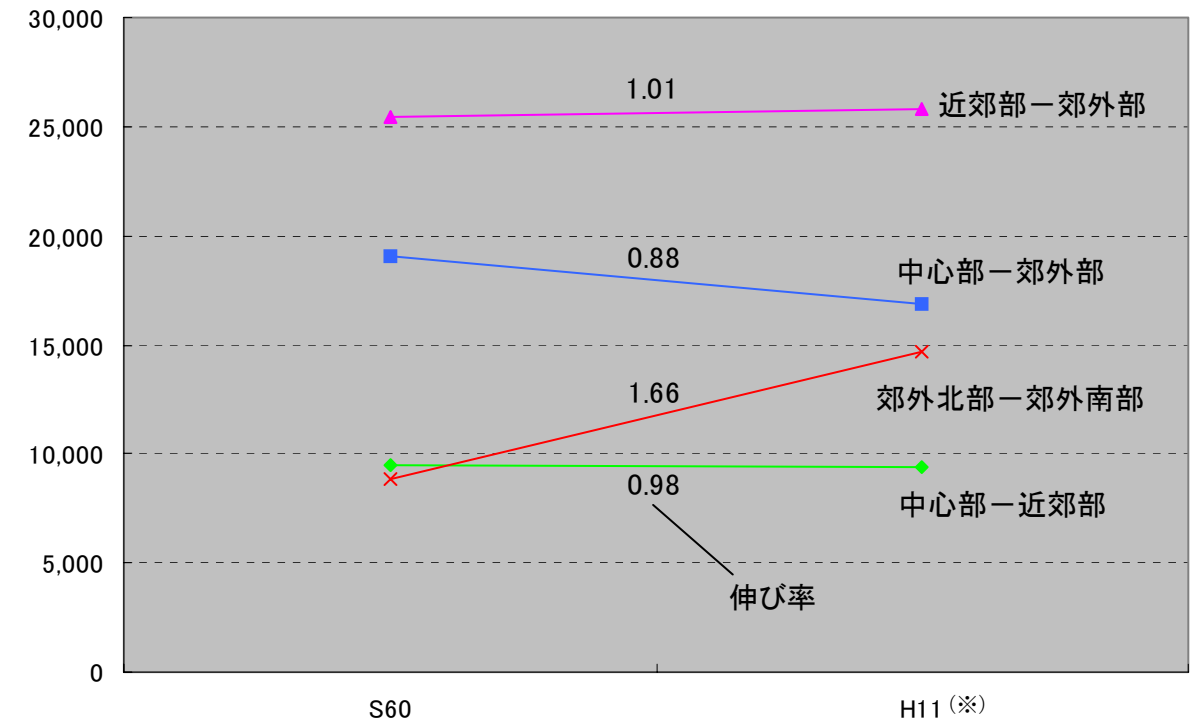
（ここでは、昭和 60 年と平成 11 年を比較するため、昭和 60 年時点における B ゾーン（4 ゾーン）を基準としています。）

▼道路交通センサスのBゾーン*区域図



(※) B ゾーン……全国を対象に市区町村をいくつかに分割したゾーン単位で、道路交通センサスの集計・解析を行う場合の基本となるゾーンです。
(旧今治市における B ゾーンは、昭和 60 年までは 4 ゾーン、平成 6 年から 9 ゾーンになっています。)

▼自動車流動の伸び率



資料/道路交通センサス

※H17 道路交通センサス結果に基づく自動車流動はまだ公表されていないためH11 データを活用

▼旧今治市内間の交通の推移

	今治1区	今治2区	今治3区	今治4区	関係トリップ数
今治1区	5,469	9,357	8,625	8,218	31,669
	4,759	9,519	11,489	7,606	33,373
今治2区	1.15	0.98	0.75	1.08	0.95
		6,005	15,503	10,318	41,183
今治3区		5,616	16,922	8,536	40,593
		1.07	0.92	1.21	1.01
今治4区			25,740	14,690	64,558
			24,235	8,851	61,497
今治4区			1.06	1.66	1.05
				11,817	45,043
今治4区				10,265	35,258
				1.15	1.28
					182,453
					170,721
					1.07

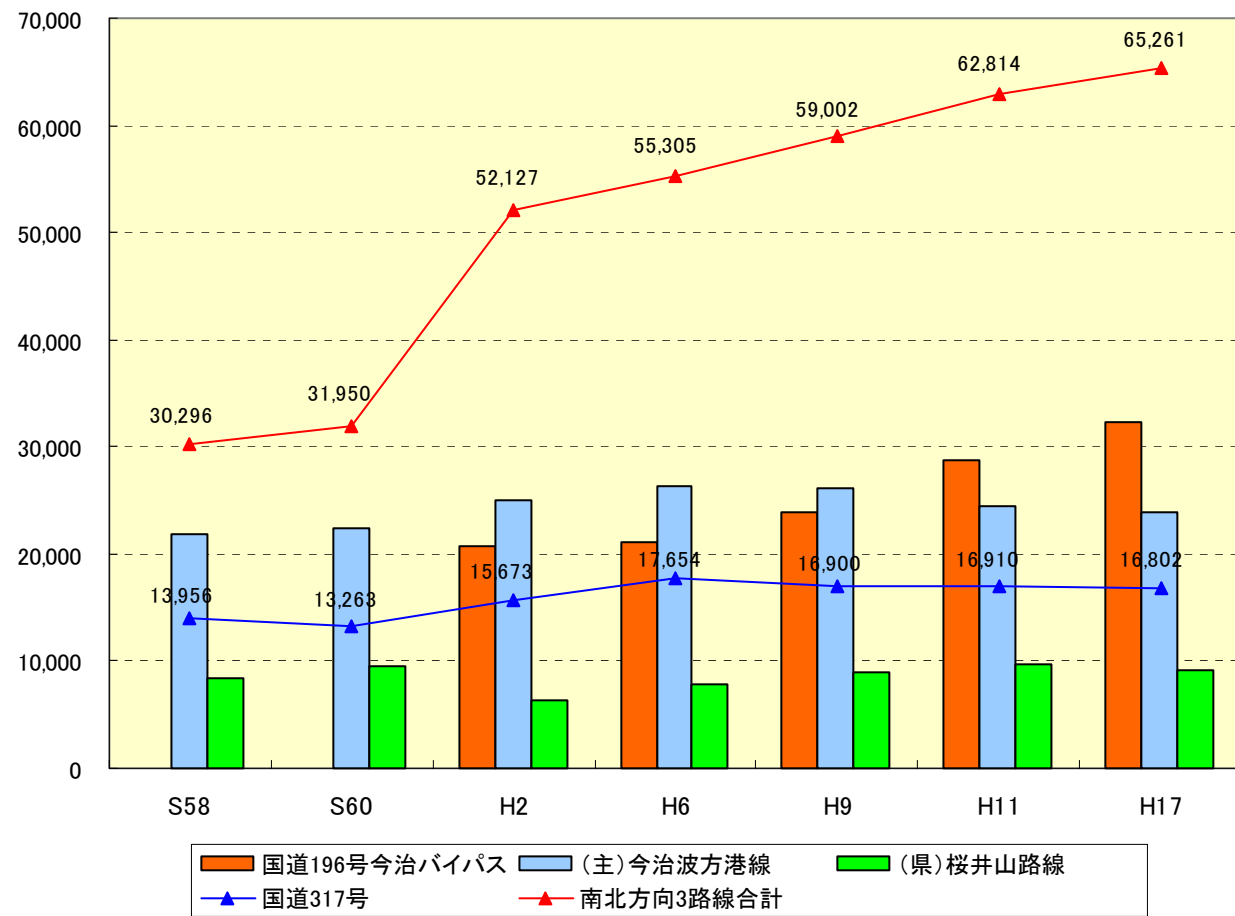
旧今治市内
相互間総トリップ数

上段	H11
中絶	S60
下段	H11/S60

(2) 主要地点・主要断面における交通量の推移

- 平成17年度の道路交通センサスデータによれば、交通量が30千台/日以上の間は国道196号今治バイパス、20千台/日以上の間は国道196号大西方面・長沢方面、および(主)今治波方港線となっています。
- このうち、4車線道路は国道196号今治バイパスのみであり、大半は2車線道路となっています。
- 断面交通量の推移をみると、南北方向(国道196号今治バイパス、(主)今治波方港線、(県)桜井山路線の合計)は、年々増加しています。
- 一方、東西方向の国道317号は、横ばい状況となっています。これは、国道317号の南北に東西方向の4車線道路(市道:宮脇片山線・市道:鳥生大浜八町線)が整備されたため、交通量が分散しているためだと思われます。

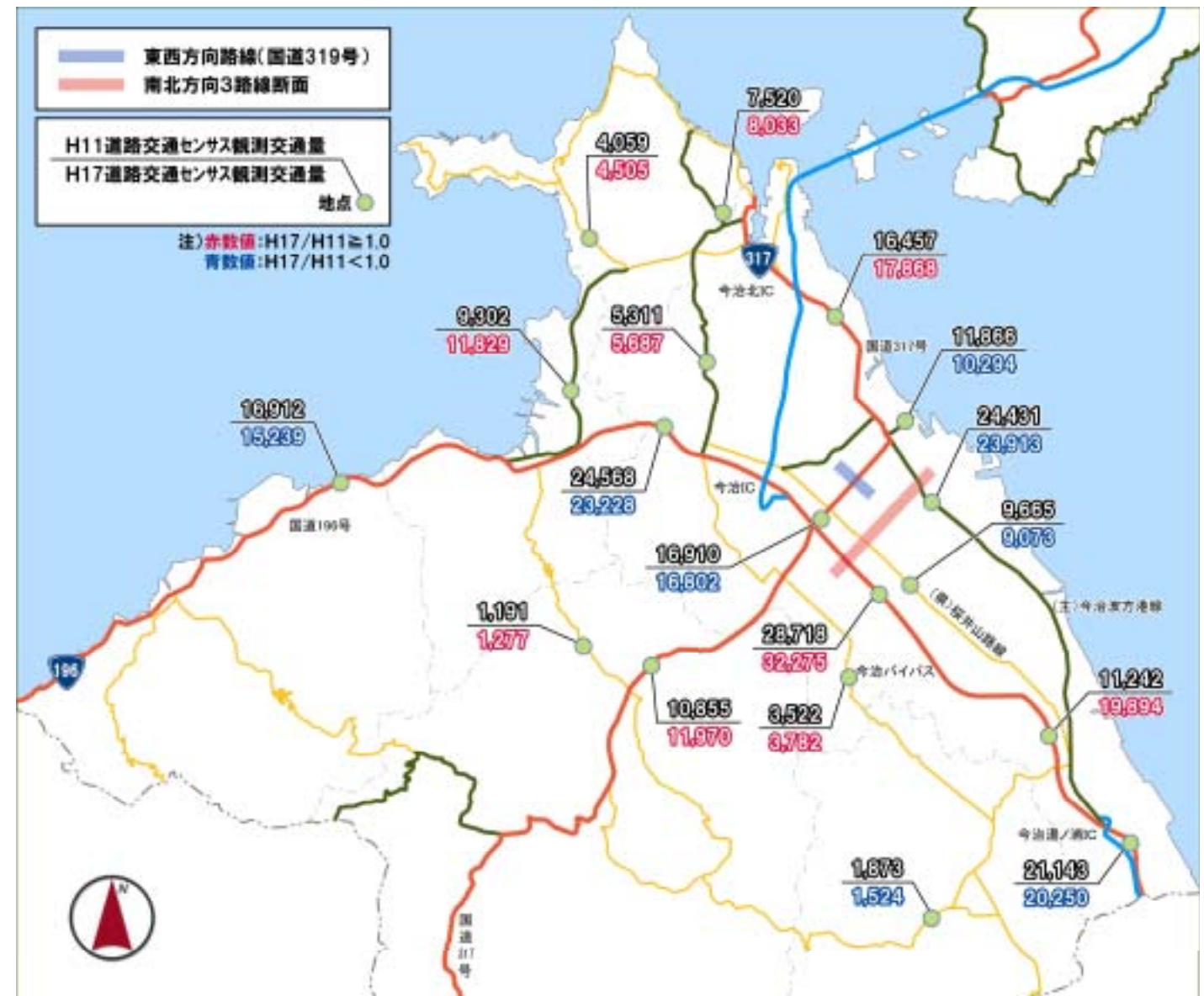
(道路交通センサスによるため、国県道のみで解析)



交通量(台/日)

路線名	調査地点	S56	S58	S60	H2	H6	H9	H11	H17
国道196号今治バイパス	中寺245-1	-	-	-	20,761	21,055	23,900	28,718	32,275
(主)今治波方港線	祇園町1-1-63	19,691	21,855	22,412	24,969	26,359	26,100	24,431	23,913
(県)桜井山路線	郷六ヶ村町2-3-29	8,309	8,441	9,538	6,397	7,891	9,002	9,665	9,073
南北方向3路線合計		28,000	30,296	31,950	52,127	55,305	59,002	62,814	65,261
国道317号	片山2-2-15		13,956	13,263	15,673	17,654	16,900	16,910	16,802

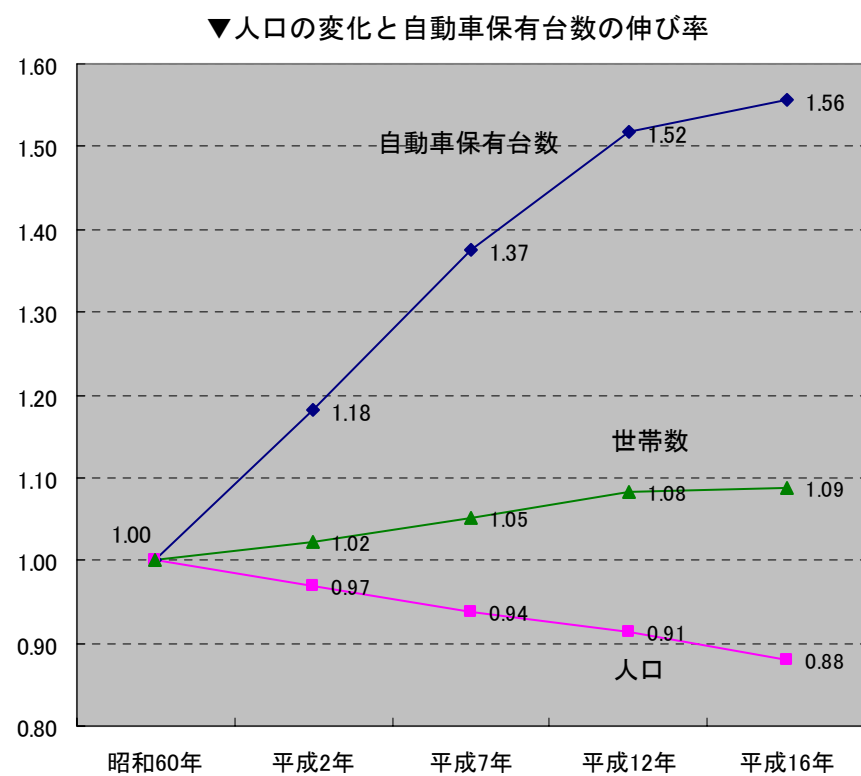
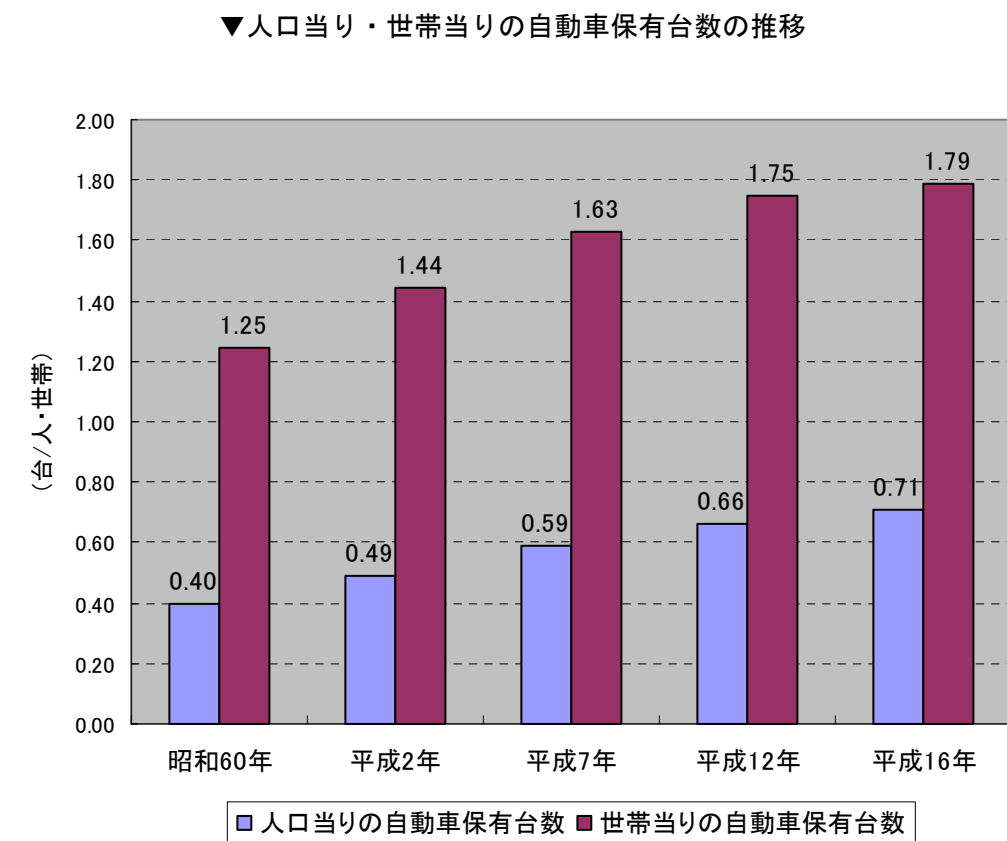
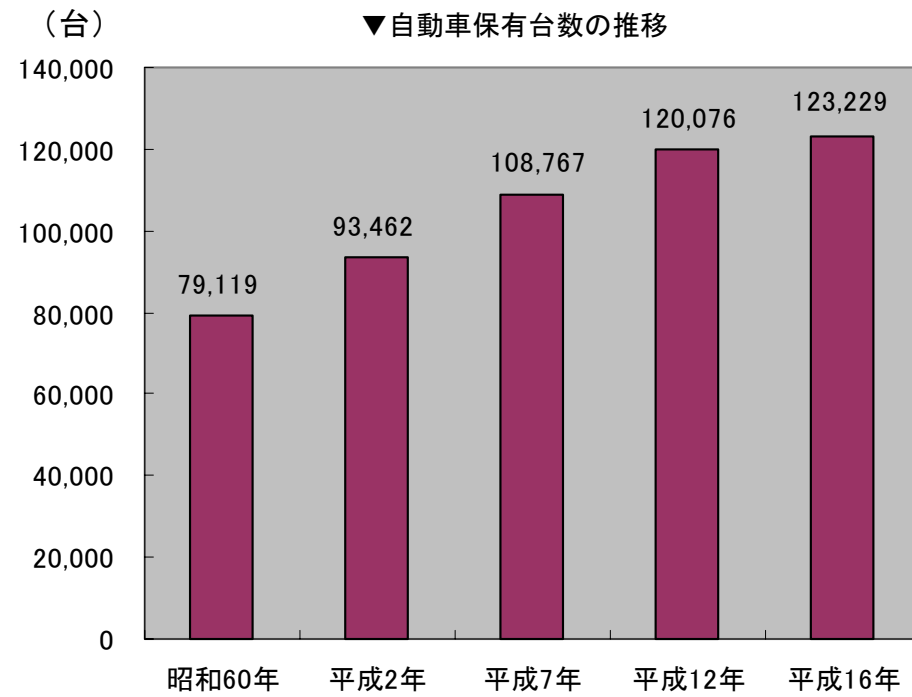
出典：道路交通センサス



出典：道路交通センサス

(3) 今治市の自動車保有台数の推移

- 今治市の自動車保有台数は経年的に増加傾向にあります。また、その伸び率は、世帯数や人口の伸び率と比較すると、かなり大きな伸び率となっています。
- 一人当りおよび一世帯当りの自動車保有台数についても、増加傾向が続いています。
- このように、現在の今治市においては、自動車への依存度が高くなっています。



資料：国勢調査（合併前数値は旧12市町村合計）

自動車数の推移（四国運輸局）

注1) 自動車保有台数には特殊車、二輪車も含める

注2) 注1) 記載条件より人口当り・世帯当りの自動車保有台数についても特殊車・二輪車も含む